

微量汚染物担当(平成21年度)

食品中の各種有害物質検査

平成21年度は、次に示す各種有害物質などの検査を行いました。

残留農薬検査

市内流通の国内産農作物23種70検体、輸入農作物14種22検体、輸入冷凍食品(農作物)15種38検体及び厚生労働省「日常食品中の汚染物質摂取量調査」による加工食品14検体等、計144検体(延べ12,499試験項目)を検査しました。その結果、検査した農薬の99%以上が不検出で、農薬の残留基準違反は認められませんでした。

食品汚染物質検査

PCB検査

カネミ油症事件で問題になったPCBについて、中央卸売市場に入荷した魚類11種20検体について検査を行いました。その結果、6検体からPCBを検出しましたが、PCBの暫定的規制値を超えたものはありませんでした。

動物用医薬品検査

疾病予防や治療または肥育の目的で使用されている動物用医薬品の食品への残留が問題化しており、次の物質について検査を行いました。

1 抗生物質

市内流通の養殖魚介類10種20検体について、オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン及びクロルテトラサイクリンの検査を行いました。その結果、検出されたものはありませんでした。

2 合成抗菌剤

市内流通の養殖魚介類10種20検体、牛肉(筋肉)10検体、豚肉(筋肉)10検体及び鶏肉(筋肉)20検体について、スルファジミジンなど28種類の合成抗菌剤の検査を行いました。その結果、ニジマス1検体からフルルフェニコールを、鶏肉(筋肉)1検体からスルファキノキサリンを検出しましたが、残留基準値を超えたものはありませんでした。

3 寄生虫用剤

市内流通の牛肉(脂肪)10検体及び豚肉(脂肪)10検体について、イベルメクチン、モキシデクチン及びエプリノメクチンの検査を行いました。また、豚肉(筋肉)10検体及び鶏肉(筋肉)20検体について、フルベンダゾールの検査を行いました。その結果、検出されたものはありませんでした。

4 マラカイトグリーン検査

市内流通の養殖魚介類10種20検体について、マラカイトグリーンの検査を行いました。その結果、検出されたものはありませんでした。

5 クロラムフェニコール検査

市内流通の養殖魚介類10種20検体について、クロラムフェニコールの検査を行いました。その結果、検出されたものはありませんでした。

6 うなぎ蒲焼中の合成抗菌剤等検査

平成21年10月、横浜中央卸売市場南部市場の業者が、賞味期限切れの中国産ウナギ蒲焼を購入し、開封、小分け後に、原材料の賞味期限を延伸して販売していることが確認されました。このことを受けて、当該品5検体について合成抗菌剤及びマラカイトグリーン類の検査を行いました。その結果、1検体からマラカイトグリーンを、5検体からロイコマラカイトグリーンを検出しました。